

10ヶ月の留学を終えしばらく経ったものの、未だに本当に留学をしていたのか、今留学を終えて日本にいるのか、わからなくて不思議な気持ちです。それでも、写真を見返すと、ああ、本当に留学していたんだと、既に懐かしく思います。

イタリアに飛び立った1年前には思いも、考えもしなかったこれまでの私の17年間の「当たり前」が全て覆され、今まで見てきたもの、考えてきたものが当たり前なわけでないと感じた10ヶ月でした。話される言語、街並み、食事、トイレ、学校、家族のあり方、そもそもの考え方。本当に思っていたものとは似ても似つかない別物でした。理解できる言葉が「こんにちは」と「ありがとう」だけだった一週間目。持っている鍵の数が多く、家の中に入るときに靴は脱ぎません。車は左ハンドル、右側通行。学校は休み時間無しで5時間、1時くらいに終わり、南イタリアでは昼ごはんが重要視されるため、昼ごはんは家でファミリーと食べていました。イタリア料理として名があるだけあってとても美味しかったです。しかし、一週間に7回パスタ。毎日細いか太いか長いか短いか違うパスタを食べていました。夜はパスタではなくピザを食べる日もありました。しかしこれも日本とは違い、一人一枚です。一切れではありません、1枚まるまるでした。町には、ピッツェリアと呼ばれるピザ屋さんがたくさんあります。日本にイタリア料理店、フランス料理店があるように、イタリアには中華料理店、日本料理店がありました。ちなみに、朝ごはんはビスケットをコーヒーにつけて食べていました。学校が終わってすぐ、昼には出かかず、夜に出かけ始めます。暖かくなってからは8時を過ぎても小学生以下の子供ですら公園で遊んでいました。お風呂に毎日入る習慣が無いのか、あまりファミリーがお風呂に入るところを目撃しませんでした。今日も入るの？と聞かれたくらいです。だからこそ香水が使われるんだなと思いました。北イタリアと南イタリアでも大きく違い、日本とイタリアでは絶対に違うと思っていたため感じなかったカルチャーショックを南イタリアと北イタリアでは感じた程でした。地域ごとにその地域でしか食べられていない、その地域が発祥のもの、ご当地グルメのようなものが存在します。また、イタリア語にも方言があります。私の住んでいる地域では、自分の住んでる町と隣の町が違う方言を話していたりしました。お互いよく理解できないことがあるそうです。イタリアに行く前の私は日本は知られているだろうとなんの根拠も無く思っていたましたが、それは気のせいで、「日本って海あるの？」「中国のどこ？」と聞かれたこともありました。日本は宗教感が強くなく、イベントごとにも宗教行事という認識は薄いように感じますが、キリスト教のカトリックが根付いているイタリアではクリスマスは教会に行きましたし、私のホストマザーは普段の生活の中でも毎週教会にお祈りをしに行っていました。

本当に何もかもが日本と、さらには私の思っていたものとも違い、同じことを探す方が難しいくらいでした。しかし、この「何もかも違う世界」を知り、これもアリなんだ、今まで日本で見てきたこと、考えてきたものごとだけが全てじゃないんだと知ることができたことが、私にとってとても大きな留学で得られたことです。また、これにより考え方の幅も広がったと思います。

最も日本と違うなと思ったことは、「自国への誇り」です。それもただの自慢ではなく、自国、イタリアをちゃんと知った上で、根拠のある誇りを持っていました。それに比べて私は、今まで学校で勉強してきていたり、ニュースを見ていたりして日本を知っていたつ

もりでしたが、うまく説明することができませんでした。このイタリアへの留学を通して改めて日本を知ることにもなりました。

そんな何もかもが違う場所でも「人との繋がり」「人との関わり」は変わらず大切で、この10ヶ月の留学を支えてくれたのは、過ごせたのは全て私の周りにいた人たちのお陰だと強く思います。日本の家族、友人はもちろん、10ヶ月の間私をホームステイさせてくれたイタリアのイタリア人のファミリー、学校の友達、学校外の友達、バレーボールのクラブのメンバー、同じくイタリアに留学中の留学生の友達。本当にたくさんの人と関わり、10ヶ月を楽しく過ごせたから、こんなにも素敵な体験ができたと思っています。感謝の気持ちでいっぱいです。

留学先には私以外にも他の国から来ている留学生がたくさんいて、イタリアだけでなく全世界に友達ができまし、文化を少しですが知ることができました。色んな国から来ている人達が、母国語でも、英語でもなく、イタリア語でみんな話しているのはとても不思議で面白い環境でした。これも留学の面白いところだと思います。

この留学の10ヶ月は、楽しいだけではなく、話せず、理解できなかつた最初の頃は苦しくて辛いことの方が多かったです。でも、この留学で得たイタリアのファミリー、イタリアの友達、他国の留学生の友達との関係は一生続いていくものだと思いますし、イタリアで約一年を過ごしたという事実自体が、今後の私を支えてくれるように思います。

